

博物館だより

第62号

2004.12.15

Nagano City Museum

よみがえる中国歴代王朝展終了!



▲縦目仮面
たてめ かもん



▲編鐘
へんしゅう



▲兵馬俑
へいばよう



▲唐三彩俑
とうさんさいよう



▲金縷玉衣
きんるぎょくい

10月23日から開催していた中国歴代王朝展が無事に終了しました。実質開催期日数30日で約18,000人の方々に見ていただきました。

展示資料100件のうち、異様な仮面（殷）、鼎形の青銅器の名品（周～戦国）、36個の編鐘（戦国）、3体の兵馬俑（秦）、金縷及び銀縷玉衣（漢）などが来館者の関心を引いたようです。11月23日の祝日は会期中最高の約1,500人の入館者があり、にぎわいました。

来館者の方々は、中国からの文物、普段見られない展示物、珍しいモノといったことから、展示物を「よく見る」、文字解説を「よく読む」という

見学行動がみられました。これらの点は通常の特別展以上の関心の表われと思います。

展示事業は、博物館における公開・教育事業の中でも重要な活動と位置づけられます。これまで当館では、独自企画の展示事業を開催してきましたが、残念ながら今回の中国展ほどの来館者実績は残していません。博物館にまずは足を運んでもらうという意味では、今回の巡回展開催の意味はあったと思っています。これを契機に再度来ていただくためにも、さらなる魅力づくりに努めなければならないと思います。我々にとって、いろいろと考えさせてくれる展示会でした。（山口 明）

移動展『資料に見る丹波島の歴史』好評のうちに終了

博物館では毎年、地域の資料をその地元で展示する移動博物館事業を行っています。今年は10月30、31日、11月6、7日の4回、丹波島地区の第1公民館で開催しました。石井区長様はじめ多くの地元の方のご協力で、4日間で述べ340人の方にご来場いただきました。資料は地元の各家に伝わる資料をご出品いただき、展示させていただきました。展示の成果として、その中の資料の一つをご紹介します。

資料は写真①の天神さんのほこらの祠です。この祠は丹波島の加藤治保さんご所蔵の資料です。祠の底には次のような銘が入っています（写真②）。「嘉永五年（1852）子極月吉日棟上 大工越後国熊吉」。加藤家ではこの祠について次のように伝えられています。弘化4年（1847）5月8日（旧暦3月24日）、長野盆地を震源とする内陸直下型の大地震が発生しました。一般に善光寺地震と呼ばれるものです。それにもなって発生した地滑りによる犀川のせき止め、その決壊による大洪水で、丹波島村では死者4人、潰屋60戸、流屋20戸という大きな被害がでました。加藤家も家屋損壊の被害を被りました。

折りしも今年10月23日に発生した新潟県中越地震と同様に、地震直後には余震や資材不足、職人不足のため、すぐに家を建て直すことはできませんでした。そこで、地震発生から6年目の嘉永五年、越後の大工、熊吉により家を建て直すことができたということです。その時熊吉が記念としてこの天神の祠と、天神の土雛（写真③）を置いていってくれたそうです。5cm余りの天神様の背面にも、「嘉永五年 天神宮 子極月」と墨書されています。このように、地震の被害にあった家では、手間不足、材料不足、職人不足、資金不足ですぐに家を復興することができなかつたのです。

被災地の周辺から復旧を手助けしてくれた大工熊吉のような事例は、長野市内をはじめ近隣町村にも残っています。宮大工、北村喜代松もその一人です。喜代松は天保元年（1830）に新潟県頸城郡市振村（現在の西頸城郡青海町）の宮大工の家に生まれ、弘化4年の大地震後に長野に入り、技量を活かして寺社の再建や造営に携わっていま

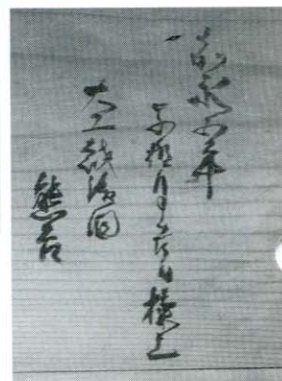
す。文久年間（1861～4）には善光寺の修復にも参加。桜小路（現桜枝町）の北村家の養子となり、多くの優れた仕事を残しています。喜代松の仕事の一部は、鬼無里村山国文化伝承館で、祭りの屋台として見ることができます。

熊吉によって建てられた加藤家は、その後平成13年に取り壊されてしまいましたが、熊吉の残してくれた祠からは、地震などの大災害の復興には、広い地域の人の協力と、長い時間が必要だということ改めて教えられます。

今回の丹波島での移動展では、この他にもいくつかの新しい資料の発見がありました。今後も多くの地域で、みなさんと協力して移動展示を継続していきたいと思ひます。（降幡浩樹）



▲写真①天神の祠



▲写真②祠底の墨書



▲写真③天神の土雛



▲写真④
嘉永5年棟上の加藤家

中野の土人形はもとより、日本全国の土人形が集められている日本土人形資料館の資料を見ると、全国の土人形の産地の数は46ヶ所にのぼっています。しかし今に残る土人形の中には、現在の産地のどこにも当てはまらないようなものもよく見られます。おそらくかつては、今よりも多くの地域で土人形が作られていたのでしょう。

今回は、このような既になくなってしまった土人形の産地に関する調査ノートです。

1 土人形の型

今年の6月頃、当館に南千歳町の公民館から、地元の人が土人形の型を持ち込んできたので見てほしいという連絡がありました。型は天神が3組、獅子、狛犬、達磨大師、不明各1組、大黒様の面の型の計7組と1つでした。

型を持ち込んだ人は太田さんという方で、太田さんの隣にある柴田理髪店の裏にあった納屋を壊すときに、納屋に入っていた土人形の型と土人形を柴田さんから譲り受けたのだそうです。この型を使って人形を作っていたのは柴田理髪店のおじいさんで、このおじいさんは上越高田から理髪店にお嫁にきた女性の父親で、娘と一緒に嫁ぎ先に引っ越してきたのだそうです。時代は今から90年程前のことで、理髪店の裏の納屋で人形作りをしていたとのこと。昔は善光寺の商店で、柴田さんの作った恵比寿大黒面が縁起物として額に入れて飾られているのを見ることができたそうです。

型のうち、大黒様の面には裏に「明治二十年五月吉日今上小町 第壹号紫地亀寿」の墨書がありました。墨書にある上小町は今の上越市高田本町通りにあるかつて職人町であったところで、墨書銘から柴田さんは長野に来る以前から高田で土人形を作っていたことがわかりました。

2 高田の土人形

新潟県では現在、佐渡や水原、柏崎などで土人形が作られています。かつては高田でも作られていました。ところが高田の土人形については記録が殆ど残っておらず、わずか昭和8年に新潟県内の土人形について調査をした川口栄三氏の報告にその記述が見られる程度です。報告には「同市の土人形製作者は、数十年前には数軒を数えたるが、明治の末期まで継続したるものとしては、中

屋敷の羽柴、上小町の柴田二氏を挙げ得るのみ。

（略）柴田は、土物より寧ろ練人形を主としたるものにして、販路は上・中越一帯に及びしもの如く、今に人々の話題にのぼるものとして、羽柴の天神、柴田の達磨あり、これらの人形は、総じて、隣県富山の影響を受け居る事を見逃し得ず。」と記されており、この中の柴田氏が長野に来た柴田さんらしいことがわかります。

3 柴田さんの出自

その後、太田さんを介して柴田さんのご子孫の方（柴田千年世さん）からお話をうかがうことができました。土人形を作っていたのは柴田亀蔵さんで、千年世さんの祖父にあたる人でした。

この方は昭和10年代頃まで健在でその時分には齢80を越えていたといえます。土人形作りを始めたきっかけは、亀蔵さんの実家が東頸城郡牧村大字下日緒子にあり、昔この家に長く逗留した土人形師が家を去る際に、亀蔵さんに人形作りを教えたのが始まりとのことでした。

また、かつて善光寺の仲見世などでは土産物として牛に曳かれて善光寺参りの土人形が売られていたようですが、その人形も高田から仕入れていたのだそうです。この土人形と柴田さんが直接つながるのかは不明ですが、いずれにせよ土人形の意外な流通が窺え興味深い話です。

4 最後に

南千歳町から出てきた土人形の型から高田の土人形と長野との意外なつながりを知ることができました。なお、この貴重な資料は現在、南千歳公民館に保管されています。

最後になりましたが、川口永三氏の資料を提供していただいた日本郷土人形研究会の宮川様、いろいろとお話をお聞かせいただいた太田様、柴田様、また資料調査のきっかけを与えてくださった金子様に御礼申し上げます。（細井雄次郎）



▲大黒面の型



▲天神さま

合併町村の博物館施設はどのようなのか

2005年1月1日の長野市と豊野町、戸隠村、鬼無里村及び大岡村との合併編入に伴い、各町村にある博物館施設は以下のように変わります。新長野市の博物館施設として長野市立博物館を核としたネットワークを新たに形成し、「わたしたち、ひとり、ひとりの、ミュージアム・長野」を目指します。 (山口 明)

合併前	合併後(1月1日より)	共通改正事項
<p>豊野町郷土資料館(リンゴの丘公園内) 平成4年4月1日開館 鉄筋平屋建423m² 見学希望の場合開館 入館無料</p>	<p>長野市立博物館附属施設 【名称】豊野資料収蔵室 見学希望の場合開館 入館無料</p>	<p>【条例等】 各町村の条例・管理規則を長野市立博物館条例及び施行規則に統一する。 【施設管理】 分館は長野市立博物館直営管理とし、附属施設は見学希望の場合の管理を支所に委託する。 【開館時間】 午前9時～午後4時30分とする。入館は午後4時までとする。 【休館日】 月曜日(祝休日と重なる場合はその翌日)、祝休日の翌日(土・日曜日と重なる場合は開館)、12月29日～1月3日の年末年始とする。 【無料入館日】 5月5日(小中学生のみ) 9月の第3月曜日(敬老の日) 秋分の日 11月3日(文化の日) 【博物館協議会】 各町村の運営委員会は長野市立博物館協議会に一本化する。</p>
<p>戸隠村地質化石館(柵小学校校庭) 昭和55年11月23日開館・昭和60年館名変更・平成5年登録博物館認可 旧柵中学校木造2階建838m² 学芸員1名・臨時職員1名 入館無料 12月1日～3月20日冬期休館(見学希望の場合開館)</p>	<p>長野市立博物館分館 【名称】戸隠地質化石館 柵小学校を改装整備して新博物館を開設する(2007年予定)。 学芸員1名・臨時職員1名 入館無料 12月1日～3月20日冬期休館(見学希望の場合開館)</p>	
<p>鬼無里村歴史民俗資料館 昭和61年5月16日開館 文化庁補助事業 鉄筋2階建737m²</p>	<p>長野市立博物館分館 【名称】鬼無里ふるさと資料館(館名の一本化) 【入館料】 一般 200円 高校生 100円 小中学生 50円 【臨時職員】 4月～12月2名常駐 1月～3月1名常駐</p>	
<p>鬼無里村山国文化伝承館 平成2年11月3日開館 総務省過疎債補助事業 鉄筋1階建408m²</p>	<p>【所在地】 鬼無里1659 国道406号線沿</p>	
<p>鬼無里村山村文化伝習館 平成7年5月2日開館 農林省農林産業振興補助事業 鉄筋2階建402.4m²</p>	<p>【入館料】 一般 300円 小中学生150円</p>	
<p>大岡村歴史民俗資料館 昭和55年4月1日開館 鉄筋2階建574m² 入館無料/見学希望の場合開館</p>	<p>長野市立博物館附属施設 【名称】大岡歴史民俗資料館 入館無料/見学希望の場合開館</p>	